

今年は特に注意！！

水稻の斑点米カメムシ類対策のポイントについて

JA全農ちば 生産資材物流部
営農支援部

1. カメムシ類の多発について

本年5月に千葉県より果樹カメムシ類の多発注意報が出されました。水稻においても斑点米カメムシ類の発生および被害が心配されます。

2. 斑点米カメムシ類による被害について

出穂後の成虫が飛来・幼虫が糞を吸汁

- (1) 出穂～穂揃期 成虫による被害 → 不稔の発生、収量低下
- (2) 乳熟期以降 成幼虫による被害 → 斑点米の発生、品質低下・等級落ち



クモヘリカメムシ ホソハリカメムシ アカスジカスミカメ 斑点米

3. 斑点米カメムシ類対策について

(1) 雑草防除

圃場周辺の畦畔や休耕田などの雑草地は、カメムシの発生源になるため、雑草防除は効果的ですが、出穂前後の草刈りはカメムシ類を圃場内に追い込むこととなりますので、**出穂の2週間前までには圃場周辺の雑草を防除しましょう。**

(★令和6年 ふさおとめ 4月20日移植の予測出穂期7月5日 である・佐倉地区より)

表1. 周辺雑草地の雑草防除に使用する主な薬剤

薬剤名	使用量(10a)	使用時期	使用回数	備考
バスタ液剤	500～1000ml	収穫7日前	3回以内※	水田畦畔で使用する場合
ザクサ液剤			2回以内※	
ダイロンゾル	200～250ml	雑草発生前～発生初期	1回	

※バスタ液剤・ザクサ液剤の使用回数は共通なので注意する。

水田畦畔のグルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数は3回以内



混用しての使用がオススメ！
雑草防除も大事な予防！

(2) 本田の薬剤防除

成虫が飛来する「出穂期～穂揃期」と成幼虫が吸汁加害する「乳熟期～糊熟期」の2回散布が重要です。空中散布による広域防除を行っている場合でも圃場をよく観察し、必要に応じて追加防除を行ってください。

表2：斑点米カメムシ類対策薬剤防除の目安

出穂期	1回目散布（出穂期～穂揃期） 【成虫対象】	2回目散布（乳熟期～糊熟期） 【幼虫対象】
7月5日	7月5日～8日	7月19日～7月24日
7月15日	7月15日～18日	7月29日～8月3日
7月25日	7月25日～28日	8月8日～8月13日

※出穂期は、全体の40～50%が出穂した日、穂揃期は、全体の80～90%が出穂した日

表3：カメムシ類の主要防除薬剤

薬剤名	使用量・希釈倍率 (10a)	使用時期	使用回数	備考 (1回目散布のポイント)
スタークル粒剤	3 kg	収穫 7日前まで	3回 以内	出穂期～穂揃期に湛水状態で散布
スタークル豆つぶ	250 g			水深は3～5 cmが効果を最大発揮。
スタークル液剤 10	希釈倍率 1000倍 (使用液量 60～150ℓ) 希釈倍率 8倍 (使用液量 0.8ℓ)			出穂期～穂揃期に散布 8倍希釈は空中散布、無人航空機による散布に適用



スタークル粒



スタークル豆つぶ



スタークル液

カメムシの多発生が見られるときは
空中散布による広域防除に加えて
個人防除も行いましょう！

